

稿 寄 学校施設の改善へ向けて

小田原市長 加藤憲一

子どもたちが長い時間や劣化が進み、機能整備を過す「学校」。健やかな育ち、集中しての学び、思い切り体を動かす運動、そして友達との交わり。そうした活発な学校生活を支える施設のありようは、言うまでもなく極めて重要です。一方、市の

な温暖化傾向の中、もはやこの暑さは「異常」ではなく「定常」になるのではと、危惧を抱きます。海からの風などで夏も凌ぎやすかった小田原では、教室に扇風機を設置、児童・生徒は自然な風の中で夏を過ごしてきましたが、この気象変動に鑑み、エアコンの導入に向けた検討を開始しました。お子さんの健康を心配する保護者の皆さんからの願いも、しっかりと受け止めています。

公共施設でもある市立の学校（幼稚園6、小学校25、中学校11）は、他の公共施設と同様に老朽化

今年各地で40℃を超えるなど、酷暑が大きな問題となりました。世界的な温暖化傾向の中、もはやこの暑さは「異常」ではなく「定常」になるのではと、危惧を抱きます。海からの風などで夏も凌ぎやすかった小田原では、教室に扇風機を設置、児童・生徒は自然な風の中で夏を過ごしてきましたが、この気象変動に鑑み、エアコンの導入に向けた検討を開始しました。お子さんの健康を心配する保護者の皆さんからの願いも、しっかりと受け止めています。



かとうけんいち

1964年小田原生まれ。小田原高校・京都大学法学部卒。2008年5月小田原市長に初当選、現在3期目を務める。妻と子供2人の4人家族。

もうひとつは、木質化による教育環境の改善。見た目も手触りも優しく、調湿効果も高い木材を、校舎の内装にふんだんに

私が変わる・小田原が変わる

おだわらを拓く力
(加藤けんいち後援会)
小田原市栄町2-13-1-2F
TEL.0465-21-5260
(月・水・金 10:00~17:00)
<http://www.katoken.info>

用い、居住環境の質を高め、長寿命化を実現しようとする試みで、この夏休み、東富水小学校で三千万円ほどの予算を用い、昇降口・廊下・多目的室・図書室などの改修を行っています。小田原ではここ数年、森を守り木のある暮らしやまちづくり

に繋がる地域産木材活用の取り組みを、林業・木材産業・建築業などの皆さんと一緒に進めており、その活動の成果と絆がこの事業にも活かしています。来年以降も市内各校に拡げる考えです。